

2022年度 寒地土木研究所一般公開開催報告

国立研究開発法人 寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム
水産土木チーム

2022年度寒地土木研究所の一般公開を7月8日(金)・9日(土)の2日間にわたり開催しました。昨年、一昨年と新型コロナウイルスにより2年連続の中止となっていたため、3年ぶりの開催となりました。現在も新型コロナウイルス感染症が終息していないため、人数制限を設け、アルコールスプレーを随所へ設置するなどの感染症対策を行っての開催となりましたが、両日とも天候に恵まれ2日間で合計852人のお客様にご来場頂きました。各研究チーム・研究ユニットが工夫を凝らした研究内容の紹介により、子供たちだけでなく大人の皆様にも、それぞれのコーナーで実験・体験・発見を楽しんで頂きました。

寒冷沿岸域チームでは「波と流水を知ろう！」をテーマに大型平面水槽の造波装置で起こした波を模型の防波堤に作用させる実験、流水模型の組み立て体験などを行いました。大型平面水槽では防波堤が波浪から港を守る様子を皆様真剣に見学しており、この体験を通して港と波への理解を深めて頂きました。流水模型の組み立て体験でも多くの親子連れの方々が来られ、親子で一生懸命に模型を作っていました。

水産土木チームでは「海の中の見えない世界を知ろ



う」と題して、エゾメバルやナマコ、オオヨツハモガニなど、水産土木チームが研究対象としてきた北海道沿岸域に生息する海洋生物を集めた見学用水槽を設けました。普段、生きた海洋生物を直接見ることが少ない子供達にとって貴重な体験であり大人気でした。さらに、3DプリンターによるROV用のスラスタガード製作の実演やROV実機の展示、ブース内に設置したモニターではオオヨツハモガニによるナマコ捕食や、ROV及び潜水士による人工魚礁・漁港内の撮影内容を上映しました。来場者の方々は展示物を興味深くご覧になっており、理解を深めて頂きました。

来年も多くの皆様のご来場をお待ちしております。



寒冷沿岸域チームの展示状況 (左：大型平面水槽の説明を聞く小学生 右：流水模型の組み立ては親子連れに大人気)



水産土木チームの展示状況 (左：熱心にメモをとる小学生 右：水産生物の骨格標本をもって記念撮影)

